HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	沙流川源流の森林の文化的景観としての期待
Author(s)	上田, 裕文; 小池, 辰典; 小池, 孝良
Citation	アイヌの伝統を基層にした多文化な景観 : 北海道平取地域の文化的景観に関する論説集, 6-7
Issue Date	2024-03-29
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/92883
Type	report part
File Information	ronshu_biratori (5).pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

沙流川源流の森林の文化的景観としての期待

上田裕文　北海道大学ﾒﾃﾞｨｱ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ研究院 准教授
小池辰典　北海道大学ﾒﾃﾞｨｱ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ研究院 研究員
小池孝良　北海道大学農学研究院 研究員

はじめに

「アイヌの森の再生」を目指すプロジェクト (上田ら 2023）を、アイヌの聖地とされる沙流川源流を主要な研究の場とし、施業指針として適地適木や混交林化を有する“ 森林美学 ”の視点から進めている（新島・村山 1918; 小池 2021)。それにより、平取における森林の文化的資源としての役割を高めるための基礎を論じる。その内容は、世界遺産条約における「文化的景観」の視点に沿うものである（文化庁 2005)。

森林美学の視点

「森林美学」とは元来、ポーランド西部 (当時はドイツ) の地主貴族ザーリッシュが 1885 年に提案した「経済林の美学」であった。それを札幌農学校（現、北海道大学）の新島善直がドイツに留学して持ち帰り、その門下生の村山醸造が、自らが魅了された沙流川源流の森林を対象に樹形の美の解析を進めた。これらを基礎に日本の風土に合った森林管理のあり方として日本型の「森林美学」がまとめられた (新島・村山 1918)。その内容は、生態系を保全し、野生動物、草、樹木などの自然資本を持続的に子孫に伝える体系である。一方、発祥の地ドイツでは、南部バイエルン地方の森林を対象に「自然林の美学」として展開してきた（小池ら 2021)。

この「森林美学」の指針は、2022 年に採択された COP15 で求められている生物多様性の保全に資する活動という目標のなかで求められている持続的な森林管理と合致する。

沙流川流域の文化的景観としての価値の創造

現在、北海道開拓の時期に植樹されたカラマツなど針葉樹の人工林は収穫する時期に入っており (来田・小池 2022)、その後の再生を考えねばならない。それに沙流川流域の文化的景観を意識する必要がある。その際、開拓前に広がっておりアイヌの生活の場であった「針広混交林」を目指す。その手法として適地適木・混交林化を施業指針とする「森林美学」が有効であり、それを通じて、流域単位で森林の多機能を発揮できる複相林 (図 2) を造成する (藤森 2003)。そのモデルには人為攪乱がほぼ無かった場所の自然林を見本とする。この森林の再生にあたり、全国的な課題であるシカの食害対策が必須となった。

図 1　沙流川源流の伐採前の森林の一例　(1973 年当時：鮫島惇一郎氏提供) エゾマツ、アカエゾマツ、ダケカンバなどの混交林

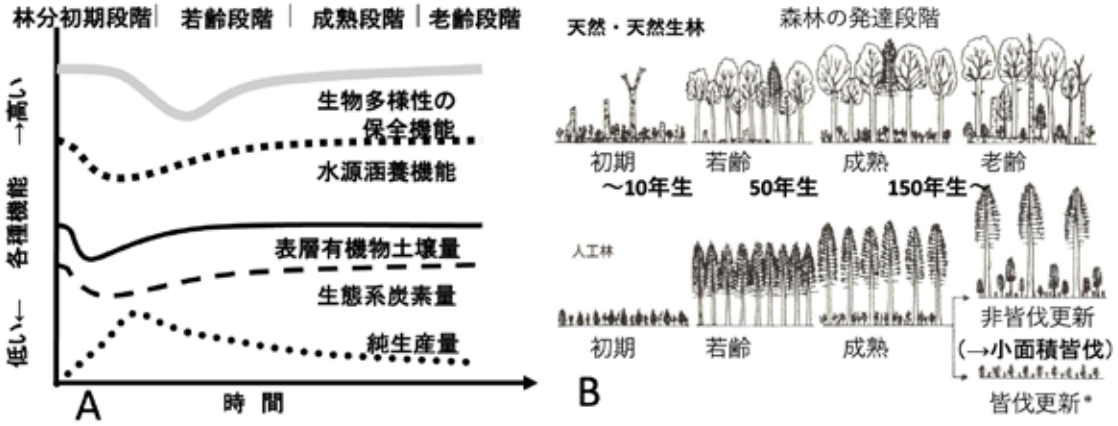

図２ 複相林のイメージ（A）と期待できる多機能の時間的変化（B）…1 つの林分では、多機能を実現できないので流域単位で考える。なお、保健文化機能は目標が多様なので、各発達段階で対応する。Oliver & Larson (1986), 藤森（2003）から作成

森林再生のなかで意識するものとして、森林の発達段階への注目、構成樹種と共生菌類の関連、樹形や光利用特性等を類型化した成林への更新補助法を学ぶ場がある。これらは、平取町全体のエコミュージアム構想におけるサテライトとして位置づけられると考えられる（上田ら 2023）。その際には、特に次のことを意識する。1）異なる植栽地を「展示物」とすること。2）森林生態系や森の世代交代 (更新) が意識できるようにすること。3）自然資本を巧みに利用してきたアイヌ民族の英知や世界観を学び、時空的情報を得ること（文化庁 2005）。これら 3 点である。長期的なスパンで「アイヌの森の再生」プロセスが文化的資源として活用されることを期待したい。

引用文献

文化庁（2005）日本の文化的景観、同成社

藤森隆郎 (2003) 新しい森林管理、全国林業改良普及協会

来田和人・小池孝良（2020）日本の林木育種の過去・現在・未来、森林遺伝育種 11：8-13

小池孝良 (2021) 森林美学への旅、海青社

新島善直・村山醸造 (1918) 森林美学、成美堂書店

Oliver CD & Larson BA (1986) Forest Stand Dynamics, Update Edition, FES publisher.

上田裕文ら（2023）平取町における長期的森林施業計画の提案 、収録：21 世紀・アイヌ文化伝承の森整備推進事業・調査研究報告書 2022 年度：5-12